

# 癬痕拘縮の形成術後に対する装具療法例

田原 俊次

[川村義肢 株式会社]

丸山 成一

[大阪医科大学 形成外科教室]

---

一般的に形成外科でおこなわれている癬痕拘縮等の形成術後には数週間の固定を必要とする。そのため、しばしば固定用装具の製作依頼があるが整形外科領域（主にリハビリ）からは新たな関節拘縮を起こしかねないとの理由で、機能訓練時には装具をはずしておこなわれてきた。また、圧迫を加えることで関節を動かしても癬痕は肥厚しないという理由から一定の圧迫を加える事を目的とした装具（主にサポーター）を製作してきたが、どちらの場合にも形成外科的に十分な治療効果を得られないことがあった。今回我々は大阪医科大学附属病院、形成外科にて装具を外さずに機能訓練をおこなう事が出来、形成外科的に治療効果を高められる事の出来得る装具の製作を試み、良好な結果を得る事が出来たのでここに報告する。